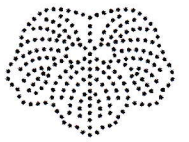


「リョウマ伝」は高野の分身がお客様のとうへご挨拶に向う。とう氣持ちでお届けしています。



# リョウマ伝

62号  
2025年1月26日  
高野 竜馬

## 「寝正月」

昨年の大晦日、長男がインフルに感傷。近所の急患センターに行く診察まで3時間、その後、会計から処方まで更に3時間。まさに一日がかりの診療です。

夫婦で診察と会計を分けて担当したものの、先に診療につきあった家内が、「あそこにあれだけ居たら感染するわ」との言葉通り、翌元旦に発症。私も倦怠感から始まり発熱が……。ガビーン！

2024年の年末は日の並ぶが良く公私ともにキレイに後始末がついた矢先でしたので、無茶苦茶、暗い気分になりました。元旦に取り寄せていたお餅が無くなると、食料

## は全てコンビニ頼り。お隣で今

年は文字通りの寝正月。受験生の娘にインフルエリガだけは極すまいと3人のインフル患者が結集。例年になく何も出来ない正月でした。印象に残ったのは箱根駅伝くらいです。今までさほど真剣に見たことが無かったので小さなことにも氣づき、感動します。

ランナーを先導する白バイ運転手の紹介まであること。中には箱根の先導したくて白バイ乗りを目指した人もいるじゃありませんか！

給水区間の距離も50mと決められてるなんて知りませんでした。そしてそこにも様々な演出があります。中でも9区、青山学院キャプテンと給水担当者の

乾杯はほっこりするシーンでした。まだ残り一区残っている状況で、予祝する二人の姿はまさに青山学のチームワークの良さを物語るシーンでした。スポーツライトを浴びられなかった部員含め、携わる人みんなの力で「箱根駅伝」が成り立っていることが良く伝わってきます。結果は今大会も青学が優勝。この10年で8度の総合優勝という強さに、アツク青学の声も聞かえてきます。

この青学、原監督が復活させるまで33年間という箱根駅伝史上最長の暗黒時代を経験した大学であることを知ると、私は許せる氣がするのです。解説者たちが皆ほめる練習量やその内容、そのこなし方にも興味が湧いてきます。去年、マラソンをリタイアした私は、どんなに速く走ったつも

りでも5分30秒ペースを5kmと続けられないのに、駅伝ランナーたちは同じ1kmを3分程度で駆け抜けていくこと。もしスペクトの要因です。ここ数年で間違いない。一番長い時間テレビを観たお正月でした。サッポロビールCMの「丸くなるな目玉になれ」よろしく得意分野にとがり、目玉のように輝く人間を目指します。遅ればせながら本年もよろしくお願ひします。



たかの財形事務所  
〒819-0374 福岡市西区千里 707-13  
☎090-3407-2123  
<https://www.takanozaikai.com> x-11fp.takano@gmail.com